

2024年10月15日

世界の人びとのための JICA 基金活用事業
終了時活動報告書（2023 年度採択案件）

1. 業務の概要	
（１）案件名	バングラデシュのナライルにおける、高血圧コーディネーター育成の為のモデル構築事業
（２）実施団体名	特定非営利活動法人 Health Equity Research Institute
（３）実施期間	2023 年 10 月 4 日～2024 年 10 月 3 日
（４）実施国	バングラデシュ人民共和国
（５）活動地域	ナライル県
（６）活動概要	
①活動の背景：	
対象地域の 20 歳から 80 歳の住民における高血圧を持つ住民の割合は、約 39%と非常に高い。しかしながらこの地域では医療のリソースはとても限られ、医療者は感染症対策や母子保健の対応で手一杯である。事前の調査で現地住民に話を聞いたところ、多くの住民が高血圧について理解し、興味を持っているが、実際に高血圧の治療や生活習慣の改善を行えていないという現状があることがわかった。高血圧への認知はあるが、病院に行ったり薬の内服をしたりするなどの対応に繋がっていないことが問題である。この調査の内容を踏まえ、高血圧が蔓延しているにも関わらず、対応が行われていない問題を解決しようと、当団体は、JICA 基金活用事業実施前の事前事業において、非医療者によるコミュニティベースの教育介入を行い、その成果を調べる為に、エビデンスレベルが高いとされる、介入研究を行った。その結果何も行っていないグループと比べ、生活習慣病対応を学んだ非医療者のスタッフによる教育的介入を行ったグループでは、実際に住民の血圧が低下し、非医療者のスタッフによる教育的介入は、血圧を下げるのに効果がある事が証明された。この結果を踏まえ、本事業では、科学的に効果があると証明された非医療者のスタッフによる教育的介入を行う為に、非医療者のスタッフを高血圧コーディネーターと名付け、高血圧コーディネーターの育成を行う事とした。	
②活動の目標：	
高血圧について住民に教育や生活習慣改善を行う事ができる人材を育成する為の教材やオンライン学習コースを作成し、高血圧コーディネーターを育成する。このプロセスを「高血圧コーディネーター育成の為のモデル構築事業」として確立させる。高血圧コーディネーター養成に参加した参加者から都度フィードバックを受け、インタビューを行い、その情報は、最適なモデルを構築する為に役立てられる。	

2. 業務実施結果

(1) 実施した内容

・ 高血圧や生活習慣病について学ぶ為のオンライン上の学習コースを現地語で作成する。

＞専門家作成の学習コースを、英語とベンガル語で作成した。コースの作成については、日本の各種コーディネーターのシステムを参考にし、高血圧コーディネーターシステムの作成の過程を学術的にまとめ、国際保健医療学会東日本地方会で口演発表を行い、また国際学術誌である Journal of rural medicine に field report 『Training of medical coordinators for noncommunicable diseases based on Japanese experience』として受理をされた。その過程で、日本の医学生や若手医師の参画を積極的に促し、教育的効果もあったと思われる。

学習マテリアルは、各々の9つのレクチャー（下図）に従い、スライドとして作成された。英語版のコースは、スライドにして106ページに及んだ。コースはただ講義をするだけでなく、参加型のワークショップやロールプレイの形式をもりこみ、さらに高血圧の概念を理解してもらう為の、ストーリーテリング形式も盛り込んだ。スライドは現地語に翻訳されており、今後コミュニティセンターにおける高血圧コーディネーターの育成に継続的に利用される予定である。

	Time (min)	Subject
	5min	Opening greeting
		First session : Basic knowledge of hypertension
1	30 min	Story telling about hypertension (Picture book)
2	30 min	Workshop1
3	30 min	Data of hypertension in Narail
4	30 min	Associated disease (NCDs)
		Second session : Hypertension coordinator
5	30 min	System of hypertension coordinator
		Third session : Education for hypertension patients
6	30 min	Food and exercise
7	30 min	Medicine
8	20 min	Dangerous symptom and associated disease education
9	30 min	Workshop2
	5min	End greeting

(9つのレクチャー)

রক্তচাপ কী? : হৃদয় দ্বারা সৃষ্ট চাপ

- বড় টিউবে / নলে পানি কল্পনা করি।
- পাম্প না করলে পানি বয়ে যাবে না।
পাম্প করলে পানি বয়ে যাবে।
- নলকূপে চাপ দিয়ে পানি বের করা হয়।
- রক্ত = নলের মধ্যে পানি
ধমনী = নল
হৃৎপিণ্ড = পাম্প

রক্তচাপ : রক্তের দ্বারা ধমনীতে যে চাপ তৈরি হয়। সেটাই রক্তচাপ!

Health Equity Research Institute

(워크숍 1の中のスライド 1枚)

・ 学習コースの後に確認テストを作成する。

＞文献レビューにより最適な確認テストを探し、現地スタッフと協議の上現地版を作成後翻訳を行い、ワークショップの前後で行なった。雇用勤務をされている知識レベルの高い方が中心であり、ワークショップ前からスコアは高かったが、例えば体調が悪い時だけ高血圧の薬を飲めば良いという質問に Yes と答えた方（間違い回答）はワークショップ前で 22 名であったが、ワークショップ後は 0 名となった。

・ 確認テストに合格した人に対して、高血圧コーディネーターとして、ナライルのコミュニティセンターに web 上の登録システムを構築し、登録された人にバッチや証書を付与する。

＞登録システムの構築を行い、現在 31 名が登録されている。高血圧コーディネーターのバッチを作成した。（写真 1）

・ 高血圧コーディネーターが実際にコミュニティで使用する、住民教育の為の補助教材（ポスターや高血圧ハンドブック）を作成する。

＞バングラデシュにおける調査の結果、JICA などによるポスターの開発はすでに多く行われていた為、16 ページの高血圧ハンドブックの作成を行った。

・住民への補助教材の説明や教育セミナーを行えるようになる為のトレーニングを、高血圧コーディネーターに行う。実際に高血圧コーディネーターを養成しながらナライル地区に最適なものを作成し、少なくとも 10 人の高血圧コーディネーターを養成する。

＞予定を大きく上回る、31 人の高血圧コーディネーターの養成を行う事が出来た。内訳としては女性が 22 名、平均年齢は 46 歳であった。参加者の声としては、高血圧が生活習慣の改善で改善する事ができると分かったのは大きな収穫であったとの声が挙げられた。

・現地バングラデシュ NGO と協力し、登録名簿の維持管理と登録者のフォローアップを行う。

＞今回協力したバングラデシュの非認定 NPO、Bridge of Community Development Foundation (BCDF) のコミュニティセンターを 2023 年に実際に訪問し血圧・血糖測定 of 機材を寄付したり、BCDF の代表を日本に招き地方の医療システムを学んで頂いたり、現地との協力の強化を行った。今後同地域に看護学校の設立される予定であり、さらにコミュニティセンターとの連携が重要になるため、引き続き高血圧コーディネーター育成とフォローを行う。

（２）実施成果：

1. 予定通り、高血圧コーディネーターのコースマテリアル作成を行った。メインとなるレクチャーのスライドについては、109 ページ以上に及ぶ大作になった。また、日本の各種コーディネーターを参考にし、高血圧コーディネーターを作成するその過程を学術的に発表し、高血圧コーディネーターについて日本においても知ってもらう機会を作る為の発信を行った。
2. 予定の 10 名を上回る、31 名の高血圧コーディネーターが育成された。21 名の女性の高血圧コーディネーターが誕生した。
3. 実施団体による現地の NPO、BCDF への訪問を 1 回、日本へ協力者を招く研修を 1 回実施し、交流と連携の拡大を行った。

（３）得られた教訓など：

コース作成を行うのが大変であったが、しっかりとした調査を重ね、良いものが出来たと思う。バングラデシュの情勢が不安定な期間も含まれたが、1 回のバングラデシュへの渡航と、1 回の本邦研修を経て、お互いの国の現状と高血圧を取り巻く状況への理解を深められたと思う。一点残念だった事は、事前の予定ではオンラインでのシステムを構築する予定であったが、オンラインシステムに誰も馴染みがないということで、基本的に対面のシステムに切り替えられた。以前のプロジェクトでもオンラインの部分が全く達成されなかった事もあり、今後は対面を中心に行なっていくようにしたい。

（４）今後の活動・フォローアップの方針：

今回の活動を通して、よりバングラデシュとの繋がりが強くなった。引き続き高血圧コーディネーターの育成を進め、現地で急増している NCDs の患者のマネジメントの為に、努力を継続して参りたい。

3. その他(エピソード・感想・写真など)

(1) 活動中のエピソード・感想など

バングラデシュでの大規模デモや政権交代など、コロナが終わって安心かと思っていたが、予定の変更などが必要となる場面が多々あった。

現地での高血圧コーディネーターの育成という、実際に現地での教育活動を大幅に進める事が出来た。またインターネットを利用したプロジェクトは実行するのが難しく、今後はこの点に注意してより一層、ナライル県での高血圧コーディネーターの育成を進めていきたいです。上記のようなプロジェクトを可能にして下さいました、ご寄付を頂きました皆様に感謝を申し上げます。

(2) 活動の写真



(1. 高血圧コーディネータのピンバッジ)



(2. 養成ワークショップの様子)



(3. 真剣に聞き入る高血圧コーディネーター養成講座参加者)



(4、高血圧コーディネーターによる、コミュニティセンターでの住民の血圧測定)



(5、2023 年のナライル県のコミュニティセンターでのミーティング)



（６、地域の病院・介護施設の視察）

（３）JICA 基金活用事業を実施したことで団体の成長につながった点・良かった点

プロジェクトを通して、日本側からも、バングラデシュ側からも事業に関わる人数がかなり増加し、今まで団体代表者同士のみの交流が中心であったのが、チームとしてプロジェクトを行う構造に変わっていきそうである。

今まで研究主体であったプロジェクトが、JICA 基金の活用を通して、実際の地域の健康改善に取り組む段階に進めたことが良かった。

日本とバングラデシュが協力しながら、一つとなって健康問題を改善していくスキームを目指して、チーム作りを進めていきたい。

以 上